

審 議 会 名	川西市総合計画審議会（市民部会）		
事 務 局	企画財政部 政策室（内線：2111・2112）		
開 催 日 時	平成18年3月15日（水）18時00分～20時15分		
開 催 場 所	川西市役所7階大会議室		
出 席 者	委 員	秋田修一、阿部匡史、今濱勝之、大西和子、大西庄衛、奥村一郎、上岡勝、喜田和代、日下厚子、小室浩士、小柳教子、櫻井榮三、佐渡進三、塩見光男、下村泰彦、田尻公子、中元一哉、永井由起子、久隆浩、松尾和巳、松本進、丸橋保雄、柳田きぬ、山本篤、和田聡子	
	そ の 他	各部政策担当室長、財政課長	
	事 務 局	企画財政部長、政策室長、政策室主幹、政策室主査	
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	6 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	1．開会 2．「総合計画進捗状況」、「中期財政収支計画」及び「行政SR作戦」について 3．意見交換 4．その他		
会 議 結 果	事務局より「総合計画進捗状況」、「中期財政収支計画」及び「行政SR作戦」について説明の後、質疑応答を行った。 また、総合計画の進捗状況等について意見交換を行った。		

議 事 録（発言要旨）

発言者	発 言 内 容
副部長	<p>年度末の何かとお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。副部長の下村です。久部会長が遅れておりますので、その間進行役を務めさせていただきます。</p> <p>それでは、これより、平成17年度川西市総合計画審議会市民部会を開会します。</p> <p>まず、開会にあたり、市の方より畑尾助役様にご挨拶をいただきます。畑尾助役様、よろしく願いいたします。</p>
畑尾助役	<p>失礼いたします。ただいま紹介いただきました助役の畑尾でございます。本来でしたら市長の柴生が参りまして、ご挨拶・お礼を申し上げるところですが、公務のために失礼いたしておりますので、代わりまして一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>皆様方には、誠にお忙しい中を本日ご出席いただきましてありがとうございます。また、日頃から市政に対しまして、いろいろとご理解いただき、ご協力賜っていること、高い席からではございますが、厚く御礼申し上げます。</p> <p>さて、皆様方にお世話になりました、この「川西こころ街計画2012」も15年にスタートいたしまして、19年度の前期基本計画の期間満了まであと2年度となったところでございます。この間、行政におきましては、皆様方と一緒に作り上げたこの計画を、何としても達成しなければならないという強い決意のもとに、財政収支計画、そして行財政改革を同時並行的に進めて参りまして、いわゆる本市の三位一体の取組みを進めてきたところでございます。</p> <p>その結果、非常に厳しい財政状況ではございますが、総合計画で予定していた事業は概ね順調に着実に推進することができているということでございます。</p> <p>国におきましても、また地方の行政におきましても、そのあり方についていろいろ議論あるいは改革がなされているところです。国から地方への財源や権限の移譲、国庫補助金の削減、地方交付税の改革、いわゆる国の三位一体改革を始めとして、また医療保険、介護保険など社会保障制度の改革など、国において私たちの暮らしに大きく影響を与える制度改革が矢継ぎ早に出されているところです。一方、社会情勢を見ましても、昨年のJR福知山線の脱線事故、耐震強度偽装事件、また、アスベストの問題など、或いは、下校中の児童が殺害されるという殺伐とした事件も起きております。私たちの生活の安全・安心を脅かす事件・事故が相次いで発生する感があるところでございます。</p> <p>こういった、社会経済情勢と構造改革の中にあって感じますことは、いわゆる「公」の領域にわたる課題につきまして、行政だけでは決して解決しえない問題が数多く存在していると感じるところでございます。</p> <p>皆様方に作っていただいた第4次総合計画では「新しい自治・まちづくりの仕組み」づくりが、計画推進に当たっての大目標に掲げられていますが、まさに時代の潮流を踏まえたキーワードでありまして、総合計画の審議が、如何に先見性のあるものであったかを物語っているのではないかと感じるところでございます。新年度の市長の施政方針におきましても、「みんなで担う新しい公共」、そして「みんなで築く川西の自治」、この2点を市政推進の基本理念として表明していくところでございます。私どもといたしましても、これら総合計画の目標、あるいは市政推進の基本理念を踏まえまして、前期基本計画の総仕上げに邁進して参りたいと考えているところでございますので、今後とも皆様方のご理解とご協力、ご支援を切にお願いする次第でございます。そして、後になりましたが、皆様方のますますのご健勝とご活躍をお祈りいたしまして、開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。</p>

副部会長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>ここで、畑尾助役様が公務のため退席されます。</p> <p>それでは、お手元の式次第にありますとおり、本日はまず、事務局より「総合計画進捗状況」、「中期財政収支計画」及び「行政SR作戦」について説明をいただきます。説明の時間は約30分を予定しています。</p> <p>その後、お手元に配付しています、「グループ討議について」という表に従い、5つのグループに分かれていただき、約1時間話し合いをしていただく予定としております。</p> <p>それでは、早速、会議次第2について、事務局より説明していただきます。まず、「総合計画進捗状況」について説明をお願いします</p>
事務局	<p>事前に送付しています「第4次総合計画前期基本計画進捗状況一覧表」と、本日記付しました「分野評価指標について」という2つの資料に沿ってご説明させていただきます。</p> <p>まず、前期基本計画進捗状況一覧についてですが、あらかじめ部別に当初掲げた計画と、変更・追加があったものという形で上下二段に分けて示しています。今日は10分という時間ですので、詳細についてそれぞれ個別の説明はできませんが、総括的なことを数字で申し上げますと、当初、この前期基本計画で予定していた事業は192事業ということになっています。また、計画の途中で新規としてあがってきたのが、22事業ということになっています。従いまして、合計214事業となり、皆様方の資料の合計欄と一致しています。前期基本計画の当初に予定しておりました事業が192ということをおし上げましたが、それをベースに申し上げますと、変更なく進んでいる事業が130事業、変更があったもののうち、当初の計画よりも若干拡充した事業が33事業あります。それから、当初の事業の予定よりも遅延していると思われる事業が25事業、計画期間よりも早期に実施している事業が4事業です。すなわち、遅延している事業を差し引きますと167事業ということになりますが、分母を当初の192ということに計算しますと、進捗率が87パーセントということになります。これが事業面から見たところ街計画の進捗ということになります。</p> <p>一方、私ども今回の特徴といたしまして、皆様方の方から、この計画というものを成果というものとの対比の中で、進捗状況を測る必要があるのではないかというご議論もいただいた中で、整理したものが分野の評価指標でございます。資料を1枚めくっていただくと、若干、分野の評価指標についての説明をさせていただきます。一つめの所ですが、第4次総合計画におきましては、6つの政策分野、すなわちその下に表がございますが、1.健康福祉都市から6.自治体経営まで、それぞれの目指す水準として評価指標52本を設定しているところでございます。このうち評価を毎年毎年、市民の実感調査によって数値を捕捉しているものが24指標、調査はせずに各種統計を見ていく中でその数値を捕捉しているものが28指標、合計52指標となっております。そこで、我々の方で、それぞれについて分析をいたしました。資料1ページの2つめの所ですが、まず評価を実感調査に基づいて数値を捕捉している24指標については、一つは17年度時点での実感度はどれくらいの割合であったのかというもの、もう一つは14年度、すなわち第4次総合計画が平成15年度から始まっておりますので、その前年度の値と、現時点での値を比べたときに、その傾向として増加しているのか、或いは減少しているのかということクロス分析しています。2ページの資料で、AからDまでの領域別で表していますが、縦軸が平成14-17年度でどれだけ増加したかという増減率を表しています。また、平成17年度時点で実感度が高ければ右の方に行きますし、低ければ左の方に行くという4象限の表を作っておりますが、Aの領域というのは、非常に実感度も高いし、14-17の値も増加しているという領域であり、概ね良好に</p>

施策の推進が行われた結果、成果もそれなりに上がってきたという領域であります。逆にD領域というのは、実感度も低いし、14-17の値を比べても割合が減少している、状況が悪化しているという領域です。そのように見ていくと、1ページの2つめの に戻りますが、Aの領域は実感度が高く、かつ増加傾向のものということで、施策をこのまま推進する。また、Bの領域は、実感度は高いが、減少傾向のものということで、施策の進め方に検討が必要である。C領域については、実感度は低いが増加傾向のものということで、施策をより一層推進する。D領域については、実感度が低く、かつ、減少傾向にあるということで、施策の進め方の再構築が必要であるというような分析をしています。一方、3つめの ですが、これは実感調査によらず、各種統計によって数値をつかんでいるものですが、こちらにつきましては、平成19年度末の目標値を設定していますので、現時点において、19年度末の目標値に比べてどのくらいの達成率になっているのかという分析をしています。資料の3ページをご覧くださいますと、例えば一番上の「森林面積」は144%ということで100を超えています。100を超えているものについては、現時点において当初の目標よりも上回っているという見方ができると思います。逆に下段の方ですが、福祉ボランティア登録数から農業産出額までですが、これらについては、値が下がっていったということ。これらについても分析をしましたのが、先ほどの1ページの3つめの の考え方です。数値だけで分析していますので、非常に荒っぽい分析ではございますが、一定の傾向が現れて来ていると思われる。すなわち現時点における本市の強みと弱みが現れていると思われる。これを全体表としてまとめましたものが1ページの表でございます。

私どもといたしましては、「進め方を検討」と「進め方を再構築」というレベルに入っている指標については、大きな課題として捉まえていく必要がある、なおかつ助役の冒頭の挨拶にもありましたが、18年度、19年度と前期基本計画の総仕上げの時期に入っていくということで、これらの課題の解決に向けて、また、20年度から始まる後期基本計画の策定に当たっても、大きな課題としてこれらの解決にあたっていく必要があるというふうに総括をしているところでございます。以上、簡単ではございますが、総合計画進捗状況の報告とさせていただきます。

次に、中期財政収支計画の説明をさせていただきます。

事務局

それでは、本日記付してあります「中期財政収支計画」という資料で説明させていただきます。まず、1ページですが「中期財政収支計画策定のポイント」と書いてありますが、計画の策定について、本市においては冒頭で助役からお話しがありましたが、総合計画、財政計画、SR作戦という三位一体で進めているということで、平成14年に長期財政収支計画という総合計画に連動した形で10年のものを作っておりましたが、平成15年から、毎年ローリングするというので、5年間の中期財政収支計画を作りまして、毎年度の実施計画や予算編成などの指針とする形で活用しております。従いまして、財政収支計画をもとに行政SR作戦も展開しているということでございます。今日説明させていただきますのはこの資料で、計画期間は平成18-22年までの5年間の財政面での枠組みの説明をさせていただきます。なお、この計画は昨年9月に策定していますので、現在、国会で審議されています政府予算案、地方財政対策については若干反映させていないところがございますのでご了承ください。それでは、2、3ページをご覧ください。川西の財政状況が見開きで載っていますが、ここは市の広報で閲覧になったことがあるかもしれませんが、エキスの所だけ申しますと、2ページの左上、図1の表「市税収入の推移」が一番キーになるところでございます。本市の歳入の根幹である市税でございますが、ご覧のとおり山形になっていて、平成9年が251億、ここが税収のピークです。その後、右肩下がりになっていて、200億のラインを切るか切らないかというところにきています。16、17年度がぎりぎりのラインで、少し17か

ら18にかけては税制改正の影響で、この表には18年度は記載していませんが、現在、議会で審議していただいております予算案では若干上向きになってきています。このような歳入の状況でございます。川西市の市税は200億円ということでご理解いただければと思います。それから、その下にあります、図2「基金残高の推移」ですが、これは本市の財政運営をしていくために、私どもが所有しています基金、家計で言えば貯金にあたるものですが、この推移を表しています。この残高が、税収が落ち込むのと同様に落ちてきていまして、平成17年末で40億という状況になっております。これが、本市の市税とストックであります基金の状況であります。右側には、図3で「地方債残高と債務負担行為額の推移」で市の実質債務を表しています。図4では「人件費及び職員数の推移」を表しています。

少しとばしまして、4ページをご覧ください。本市では「中期財政収支計画の目標」というのを掲げております。この図で書いておりますように、真ん中の「財政の持続性確保に向けて」ということで、5年間のキーワードとして「財政の持続性を確保する」ということをターゲットにあてまして、左右上下から、遺漏なく進めていきたいと思います。左からは「基金の有効活用」、上からは市の財政を非常にしんどい状態にしている「公債費償還」。これは発行額を25億円以下に抑制して、財政の持続性への寄与を図ろうとしています。一方、下の方からは後ほど説明します「行政SR作戦の展開」、右からは市が持っている公有地で使っていないところをもっと有効活用していきましょう、これらの4点で財政の持続性を確保していきましょうということとしています。その目標を定めた上で、5ページの計画の推計表ですが、一番上の箱「歳入」と書かれていますが、それがどのように推移するかというと、まず「歳入」の箱の一番下段の「歳入合計」の欄ですが、16年度決算では314億、これは一般財源ベースで自由に使えるお金ですが、この段をずっと右に行くと、ほぼ310億台を推移するだろうと見ています。これは税収が大幅に改善しないだろうというふうに見込んでいるということです。確かに景気は良くなってきていますが、一方で市を支えていました固定資産税・都市計画税は地価の下落によって減少傾向にあります。それを相殺しますと横並びであるという見込みをしています。また、中段に「歳出」というのがありますが、これも一番下の「歳出合計」を見ていただきたいのですが、通常現状のまま続ければ、一番左側が332億、ずっと右に行っても330億とほぼ横並びになっています。そうすると310億の歳入に対して330億の歳出でございますので、単純に計算しますと、15から20億の資金不足がでてくるということでございます。これでは、本市の財政を持続することができませんので、本市の三位一体としまして行政SR作戦を展開しながら、基金を有効活用しながらこの5年間を乗り切りたいと考えています。そのSR作戦の展開のところは、すでに行われている部分もございますが、新たに18年度以降展開される部分は、下から2つめの箱の一番上に「SR作戦・H18以降展開分」がありますが、一番右端の39億4900万くらいは行政SR作戦を展開して生み出したい。また、その下に「公有地有効活用分」がありますが、未利用地になっている公有地の有効活用で14億5000万。この二つを確保しながら、この5年間を乗り切りたいと、そのような計画表になっているところがございます。非常に雑駁な説明でございますが、数値の目標としましてはこのような計画を定めておりまして、この計画表は冒頭申しあげましたとおり、毎年度、地方財政対策が変わったり、税制改正が行われたりしますので、見直しを行いながら本市の羅針盤にしていきたいと考えております。私の方からは以上で説明を終わります。

事務局

本日配付しております資料「行政SR作戦取り組み状況」に基づきまして、説明させていただきます。

さきほどの説明とダブるところがございますが、川西市は三位一体で進めていますの

	<p>で、まずそれを説明させていただきます。総合計画はご存知のとおり平成15年度から24年度の10カ年間の計画となっています。総合計画に掲げられている都市像を実現しようと思うと、一定の財源的な担保があるだろうということで、当時、事業計画期間に合わせて財政収支計画を作っております。そうしますと、こういう地方財政を取り巻く状況ですから、実質、10年間で当時94億円の赤字が出てきました。そこで、早速、新たな行革、SR作戦を実施しようということでスタートしたのがこの内容でございます。内容につきましては、1ページ目にその内容が書かれていますが、この策定に当たりましては市の附属機関で、外部の有識者の意見を求めるということで、平成14年度にSR作戦の審議会でお世話になりまして意見を集約しております。大きな項目といたしまして、9つの柱立てでやっております。まず一つが「事務事業の見直し」、いわゆる市のサービス内容が時代に遅れていないか、既に達成できていないか、また意義が薄れていないかということを経点検しましょうというもの。また、私どもの給料をはじめ、人件費の抜本的な見直しをしようということで、大きな2つ目の柱として「人件費の見直し」という項目をたてています。それからもう一つは市が支出している各団体への補助金についても時代にマッチしているかどうかを見直しましょうということで、「補助金の見直し」をあげています。4番目としまして、先ほど協働ということが出てきましたが、行政の責任領域を見直しましょうということで、「行政の責任領域の見直し」をあげています。また、5番目の柱として、民営化・民間委託ということで、効率性もありますが、行政の責任領域との兼ね合いも含めまして「民営化・民間委託の推進」をあげています。6つめとして「広域行政の活用」ということで、大きな3市1町などがありますが、それらの検討を進めましょうということであげています。7つ目として「財源の確保」ということで市の方の使用料などとの兼ね合いもありますが、この際、年度別に見直していきましょうということであげております。8番として「市民サービスの向上」ですが、これは組織など事務執行体制の見直しを中心に検討を進めたものです。最後に市内部だけでなしに、現在、市の方では5つの外郭団体がありますが、同様に見直しを進めなければならないということで「外郭団体の経営改善」という項目をあげています。それぞれそちらの表に15年度から17年度までの実施分、それから現在、議会の方で審議中の18年度の予算に反映している部分、また今後の予定の部分もあげていますが、その総額が2ページ一番下の「効果額の合計」という欄がありますが、15年度で言いますと5億1400万円、16年度が11億7700万円、ということで、各年度、さきほど中期財政収支計画のところでもSRの効果額というのがありますが、それに目標を合わす形で現在進めておまして、ちなみに現在決算としてまとまっている16年度までの状況を申し上げますと、策定当時の目標に対する達成率が100.3%ということで、概ね計画通りに進んでいるところです。ちなみに一番下に矢印を引いて「重点推進期間」と書いてありますが、現在の行政SR作戦は当然冒頭に申し上げました総合計画とリンクした形で10年間という事で定めておますが、期間が長いのでとりあえず前期の5年間を「重点推進期間」というふうに定めておまして、総額で申し上げますと、現在のところ約72億円を目標に着手しているという状況です。中身にも触れて説明できれば良かったのですが、本日のところは財源的に確保できているという状況を披瀝させていただいて説明に替えさせていただきます。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。</p>
	<p>今日はできるだけグループ討論をしていただきたいと思います。グループ討論の中に市の方も入っていただけということでですので、意見交換を図っていききたいと思います。その前に、今までのご説明に対して質問はございますでしょうか。</p>
委員	<p>中期財政収支計画のところ、5ページ目の歳入の市民税個人のところですが、16</p>

<p>部会長</p>	<p>年度が81億4500万円、17年度が83億1900万円となっていますが、団塊の世代の退職を迎え、その世代の税収が減るはずなのに、この計画では増えていますが、これは新たに川西市に転入してくる住民が増えることによって税収が増えるという計画になっているのかということが1点と、4ページに計画の目標が書かれていますが、これはいわゆる行政側の計画目標で、立法側すなわち議会の経費はどのようになるのでしょうかという2点について質問します。</p>
<p>事務局</p>	<p>いかがでしょうか。</p> <p>それでは1点目の市民税個人のご質問ですが、ご指摘のありましたように団塊の世代の退職というのは大きな影響を受けます。本市が見ておりますのは、市民税の場合は所得が翌年度の反映になりますので、19年から21年がピークになってこようかと考えています。退職のピークが19年から21年で、その翌年20年から22年の3年間に推計してみますと、毎年約8000万円くらい減収の影響を受けます。ただ、一方で、皆さん退職手当を受けられ、それに対して課税されますので、その影響で19年から21年で若干収入が増額となります。そのようなことを取り込みましても19年から22年までの間で、かなり影響を受けるということを見込んでいます。この表で言いますと、個人のところの増減率の欄ですが、20年度 0.6、21年度 0.9、22年度 1.4と落ちているのは、団塊の世代の影響であるにご理解ください。</p>
<p>事務局</p>	<p>2つのご質問ですが、4ページの目標の設定が行政の執行側のものであるのは、まさにご指摘のとおりでございます。ご承知のとおり地方自治体は、議決機関と私たち執行機関の両輪になって地方自治を進めていくという構図になっています。議会の方は別途、私どもが進めているSR作戦と連動させるような形で、独自に議会の中に改革のための委員会・協議会を設置していただき、議長以下、行財政改革のための取り組みを進めていただいていると聞いていますので、よろしく申し上げます。</p>
<p>部会長</p>	<p>そういう意味では、今日は執行機関側の議論だにご理解いただければと思います。他の質問は如何でしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケートの分析で、今日いただいた資料では14年度から17年度の伸び率を記載されていますが、事前に送付いただいたアンケート結果の方では、折れ線グラフで推移が掲載されていますが、前年度や前々年度と比べると、数値がのきなみ下がっています。20数項目のほとんどが下がっています。せっかく努力されているのに、なかなかアンケート結果ではそれが反映されていないことを、どう読むのかと仰うことです。</p> <p>市民の価値観の変化や求める行政サービス水準の変化というものがあるのかと思いますが、一つには、14年度から同じ訊き方をしているのだと思いますが、14年度から3～4年経ちますと、同じ指標で変化を読み取れるのかなあということが心配です。</p> <p>来年、再来年と同じアンケートを続けなければいけないと思いますが、評価というのがなかなか指標に、思わしくない結果が出ているので、読み方やアンケートの進め方が時代の変化を反映しづらいのかという点が気になりますが如何でしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご指摘の点につきましては、我々が分析をおこなって、この表を作成するときに同様の感覚を持ったところでございます。さきほど委員が言われたように、実は議会の方からもこういう指標については、これは一定の量、割合、数値で表しているわけですが、当然、価値観というものがこの指標には、非常に関係してくるところですので、質の面でも十分に捕捉しなければならぬとのご指摘をいただいているところでございます。</p>

	<p>当然、総合計画を10年という期間の中で、私どもの方では前期・後期の5年ごと区切っておりますので、当初掲げました指標については、少なくとも5年間は同様の年次の推移を見ていく必要があるだろうと、また同時に来年度から改定を予定しております後期の基本計画の策定に当たっては、この指標でいいのかというトータルの検証も含めて、後期に向かって新たな指標、また、変更する指標の必要性というのも含めて議論を進めていきたいと考えているところです。</p> <p>部会長 ありがとうございます。おそらく今日のグループ討議の中の話でも、できるだけ市民が分かりやすい評価をするためにはどうしたら良いんだろうということが出てくると思っていますので、よろしくお願いします。</p> <p> それでは、これからグループ討論に移りたいと思います。昨年は大人数でやりましたもので、どうしても発言しづらいという声もありまして、今回はグループ討論を試みたいと思います。今日はお配りしている名簿の上の方に、こんなことを話し合っただけならなぁということを書いております。さきほど事務局の方から説明のありました、実感調査についての感想であるとか、やはり一番大切なのは、市民の皆さんの幸せ度が上がっていくことですので、昨年から今年にかけての1年間で自分の幸せ度が上がったのかというご意見をお聞かせいただきたいと思います。更には、市民との協働という意味では、皆さん自身もこの1年いろんな所で頑張っていたと思いますので、その報告、あるいは更に協働を進めるためにこんなことを一緒に考えていけたらというような、後期の計画や今後の1年に繋がるようなお話を今日は是非とも市民の実感でお話しただけたらと思います。つきましては、各グループの中で、お顔馴染みの方もいらっしゃると思いますが、まずは簡単な自己紹介をしていただきながら、お顔を合わせていただいて、また、グループの中での進行役を決めてグループの議論に入っていただきたいと思います。また、各グループには市役所の各室長さんも入っていただいております。それでは、これからは各グループにお任せしたいと思います。時間は約1時間ですので、よろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">（グループ討論）</p>
部会長	<p>それでは、A班から順番に発表をよろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>まず、アンケートについての意見ですが、年齢層の違いによって感じ方が異なるという意見がありました。これは、今日の最初の話でもありましたが、価値観の違いか、あるいは、年齢の違いによって自分の身近な問題が違ふということによって、このように意見の違いが出てくるのではないかということでした。また、報告書の13ページの「あなたは、小学校が開催する地域での交流行事に参加していますか」という問いに対し、「あまり興味がない。」という答えが一番多かったようですが、この辺が最近の子どもさんの事件や事故に何か通じるものがあるのではないかという意見がありました。それから、川西はベッドタウンとして成り立ってきましたので、ベッドタウンとしてのまちづくりが最重要で、身近な住居空間、例えば公園や、道路の整備などを今後の計画の中で入れていかなければならないという意見がありました。また、財政計画の方で言いますと、20年までの財政計画で基金の全てを使ってしまうということになっています。説明の中では財政を持続させるということでしたが、20年に基金が0になると財政が持続しないのではないのでしょうか。やはり今の段階で何か仕掛けをしておかなければならないと思います。最後ですが、一番の問題は今日の議論で出た意見をどのようにしてくれるかということです。穿った見方をすれば、年に1回、ガス抜きの会をしたのではないかというふうにも見られます。A班の主な意見は以上です。</p>

部会長	<p>それでは、B班よろしく申し上げます。</p>
委員	<p>B班にはメンバー表をご覧のとおり、いろんな団体からのメンバーがいます。そこで、我々はそれぞれが気になることを出し合いました。その結果、いろいろな団体からのメンバーですから、それぞれ違う意見が出てきてしまいました。では、それぞれの課題をクリアする、目標を掲げていくのは何が一番良いのかということ考えたときに、やはり「魅力あるまちに川西がなってほしい」ということに終始しました。では、川西を「魅力あるまち」、「住みやすいまち」にするためにはどうすればいいのかという話をしたところ、「魅力あるまち」になったら何が変わるのかというと、住民が増える、住民が増えると収入が増えるということで、良いまちをつくっていく目的は収入を増やして、住民を増やして川西が存続していくということが大きなテーマであるということになりました。では、収入を増やすにはどうすればよいかという話が次に出てくるわけですが、まずは歳入を増やす前に歳出を抑えなければいけないという意見も出ました。これはSRの話にもなってくるわけですが、SRもSRの会議に出てきている人だけではないし、もっともっと見張る人たち、オンブズ的な役割を持つ人たち、専門的な人たちを交えてもっと強化していく必要があるという意見も出ました。そうしたときに出てくる問題点としては、労働条件であったり、労働されている方達のメンタル的なケアであったりというアフターメンテナンスの部分です。何もかもが抑圧されたような市では働く気力も無くなってきますので、労働条件などもしっかりと見据えてSRを進めていく必要があるという意見が出ました。なおかつ、行政改革の部分で、「まちづくり」をするよりは「まちづかい」をするということで、今ある箱物であったり、町などのすべてのものを上手く使っていきることができないのか。使うにあたっては、権限を移譲していくという考えのアウトソーシング、例えば、指定管理者を導入して、行政でお金のかかっているものをカットしていく、スリム化を図っていきながら運営をしていくというアウトソーシングを進めていけばいいのではないかという意見が出ました。もちろんのことながら、魅力あるまちにしていく訳ですから、今一番ポイントになっているのは中央北地区、そこをもっともっと市民の声をたくさん集めて、魅力あるまちに、良い中心地として作って欲しいという要望も同時に出ております。やはり、川西はベッドタウンです。川西の特性というのは「便利なまち」だと思いますので、その特性を最大限生かして良いまちにしていくために、住民と行政が力を合わせて頑張りたいと思います。</p>
部会長	<p>それではC班お願いいたします。</p>
委員	<p>C班は社会福祉協議会代表の方、ボランティア連絡協議会代表の方、民生委員またNPOの方などがいらっしゃいますので、市民の生の声という事で、アンケート調査の結果についての意見をそれぞれお聞きしました。まず、数字と実感がリンクしているかという意見がありました。福祉のボランティアが減っているという結果が出ておりますが、実感と実態は減っていないということが、実際、ボランティア活動をされている委員の方の生の意見として出ました。また、別の方からは、地域との繋がりが非常に大切なので、それぞれの協働の活動としては地域のファミリーサポートという活動を立ち上げてきているということです。また、これだけの市民の方から集まったアンケート結果の充実した細かい意見を上手く実現させると、川西市が良いまちになるのではないかという実感も出ました。また、C班には市の方から総務部の行政室長さん、美化推進部の室長さん、水道局の次長さんがいらっしゃいますので、私の方からアンケートの中にもたくさん意見の出ている、ゴミ焼却場のこと、また水道のことをお聞きしましたところ、やはり水道局次長さんの実感としまして、アンケートの中で「川西の水が安心して飲め</p>

	<p>ると感じている市民の割合」が50%を切っているということに、かなりショックを受けられまして、もっと安心度が高いと思ってらっしゃったのですが、久先生も入っていただいてなぜかと言うことを解明していったのですが、やはりゴミ焼却場の場所とダム の場所が近いところにあると、イメージとしてそのように感じられるのではないかということでした。細かい基準をクリアしているという実態調査もさきほど次長からお聞き しまして、非常に安全度が高いと言うことをどのように市民に情報を提供していくか ということを考えなければいけないということでした。それからごみ焼却場の問題も美化 推進室長さんから、ゴミの問題は市民の皆さんの生活に非常に密着している問題です ので、日に何十件、何百件と電話がくるということも聞かせていただきました。また、別 の委員の方は、NPOをこれから立ち上げようとする方をサポートするアドバイザー的 なNPOとして活動をされてまして、その活動の第一弾がこの3月18日に行われると いうことですので、せっかく今日は関心度の高い皆さまが集まってらっしゃいますので 、PRをしていただきたいと思います。</p>
委員	<p>失礼いたします。今、紹介いただきました3月18日のことですが、特定非営利活動 法人「市民事務局かわにし」が企画して主催させていただきます交流会なのですが、N POを立ち上げたいとかそういうものでなくて、いろんな分野の方達が、いろんな立場 でいろんな事を話し合おうという、気軽に何でも話し合っ繋がってこうという会 です。今まで交流会はいろいろしてきたのですが、NPOのグループだけとか、ボラン ティアのグループだけとかの交流でしたが、今回はそういうグループを取っ払って個人 でも行政の方とか事業主の方とか、いろんな立場の方達に来てもらって話していただ こうというものです。ですから、今日ここで話し足りなかった方は是非、3月18日6時半 からパレットかわにしでお待ちしていますのでお集まりください。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。ではD班よろしくをお願いします。</p>
委員	<p>まず最初にこの5カ年計画である中期財政収支計画等では数字が細かすぎて、しっ かりと読めなかったというのが本音です。</p> <p>市民の実感調査についての話し合いでほとんどの時間を費やしたところです。まず、 環境面につきましては、歩道が少ないとか自転車に乗っていて危険箇所があるというア ンケート結果がありました。また、公園が少ないということで、やはりこれも自治会等 のお金が必要になってくるということでした。防犯の関係では、暗いところが多いとい うことで、先ほどのグループの発表にもありましたが、やはり最近、子どもさんが危険 にさらされているということで、街灯も必要ではないかということでした。その辺のこ とについても、やはり財政のこともありますし、全てお金がかかることでありますので 、市の方も考えていただければと思います。次に、よく箱物とか言われますが、川西市 民病院の利用が少ないという意見もありますし、図書館が少ないという意見もあります 。また、スーパーが少ないということで、川西市内で買い物する人が少ない、やはり駐 車スペースが少ないということで、猪名川町へ行かれる方が多いということで、冒頭話 がありましたが、土地があれば、そこへ勧誘する施策も考えていただきたいと思いま す。また、小さな施設が分散しているということで、大きな総合的な施設が必要ではな いかということもございます。あと、文化会館があるわけですが、駐車スペースが少な いということで、何らかの対策が必要ではないかと思えます。あと、市民が使いやすい施 設をもっと作るべきではないかと思えます。また、文化面にしましては、なるほどな ぁと思ったのは市町村合併のことです。合併することによって愛着のある地名が消え ていくということで、もっと文化を大事にしていれば良かったなと思いました。川西市 の方では今まで無かったのですが、今日は会長さんも来ていただいています、ボラン</p>

	<p>ィアを立ち上げ、その辺のことをしていただいているということです。また、駅の周辺を中心に施設の案内プレートが必要ではないかという意見が出ました。これはそんなにお金がかかることではないですし、私も昨年の10月に来まして、川西池田から能勢口の方に来るときに、源頼光の銅像を見て、何の銅像がここにあるのかなぁと思ったときに、そこには案内プレートがありました。市立図書館など駅前にありますが、よそから来た人にとっては分かりにくいと思います。そのような文化的な面も整備してはどうかと思います。また、先ほど言った環境面、文化面のどれかに入るかも知れませんが、川西は農地が少ないということで、農家の方との意思疎通ができるようなところがあった方がいいのではないかと思います。また、子どもを育てる上で、このアンケートを軽く見ないで欲しい、市民の生活を良く見て欲しいと思います。このアンケートは20数項目ありますが、市民の切実な願いも入っていると思います。やはり文化も歴史もある川西市をアピールできるのであれば良いかと思います。あまりまとまってはいませんが、これでD班の発表を終わります。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、E班よろしくお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>E班では、基本的にこのアンケートの結果をもとに「市民が幸せを感じるにはどうすべきか」という1点に絞って議論しました。しかしながら「市民が幸せを感じるにはどうすべきか」ということは、非常に幅広い論点を含んでいるので自由に闊達に意見交換をすることができましたので、私の方ではこのグループの皆さんが問題意識を共有した点、3点について報告させていただきます。まず、1点目ですが、このアンケートの中で非常によく見られますが、地域間の温度差、世代間の温度差というものをどのように考えていくのかということです。この部分の問題意識というものが非常に議論されました。地域に関して言うと、昔からそこに住んでいて、地域に非常に愛着を感じている人の問題意識と、新興住宅地や引っ越ししてきたばかりの人たちのニーズとを、どうまとめていくのかという問題意識が地域の温度差という面でとりあげられました。年代の温度差ということ、このアンケートにおいて、例えば10代の方の回答率が非常に低いということで、高齢者ばかり目を当てて良いのか、あるいは、こういった形で世代間の温度差、それぞれの世代の持っている問題意識をすくい上げていくのかということが、非常に重要ではないかという議論がされました。2点目は、主に高齢者を想定して議論しましたが、市民が幸せを感じる、その「幸せ」という部分は、生きがいがづくりであるとか、その生きがいがづくりが社会貢献になっているとか、その仕組み、あるいは、その社会貢献という枠組をどう作っていくのかということが非常に議論となりました。このグループの中で、若い人から非常に経験豊かな方までいらっしゃいますので、非常に世代間のズレというものがあつたかと思いますが、社会貢献というものが非常に生きがいがづくりに役立っているということでしたので、その問題意識をこれからアンケートを基に持つていくべきではないかという議論がなされました。最後3点目になりますが、生きがいがづくり、社会貢献を含めて市のPRの問題が議論となりました。川西市の行政に対して、非常にPRが下手なのではないかという意見が多数寄せられ、情報の伝達、例えば生きがいがづくりであるとか社会貢献というものの制度がしっかりとあるのであれば、それをPRしていくことが、次のステップとして非常に重要ではないかという議論がされました。以上、3点ご報告させていただきました。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、全ての班の発表が終わりましたが、少し私と副部会長の方からコメントをつけさせていただいて、終了したいと思います。それでは、下村先生、よろしくお願いします。</p>

副部長	<p>皆さんお疲れ様でした。非常に楽しく拝聴させていただきました。</p> <p>話を聞かせていただきまして、例えばA班では、「住む」とか「財政的な問題」を中心に取り上げられていましたが、それに関連してB班でも住むときの魅力性とか利便性を充足させるためにはどうしたら良いかということ議論されたように思いました。その利便性については、住む環境だけではなく、働く環境も充足する必要があるということでした。また、C班では福祉的な側面や水道などに係る都市基盤の問題や、環境問題であるゴミの問題について議論がなされ、その環境問題については、D班でも公園などの都市基盤の問題を取り上げ、それ以外にも文化的な側面から議論がなされていたと思います。それぞれの班で提言されたことは相互に関係することが非常に印象的で、それをどのように次のステップに反映させるかということが大事になってくるのではないかと感じている次第です。それをE班で発表されたように地域での特色を生かしながら、地域間の温度差をどのようにまちづくりに生かしていけるかということになると思います。</p> <p>私が何を申し上げたいかということ、5つの班がそれぞれ特化した内容を述べられてますが、それらが相互に関係しているということに非常に感じておりまして、それらを如何に今後反映させていくかということがこれからの勝負になってきて、来年度またそれを見たいなぁという気がしています。</p> <p>私はたまたまA班に入らせていただいていたのですが、一つの班で話し合われていることが、別の班でも話し合われていたということは、すなわちそれは多くの人を感じていることなのだと思います。そういうことを踏まえながら、単独の事業だけでなくソフトもハードも含めているんな事業との関連を考えながら、縦割りではなく横の繋がりでも事業の進捗状況を見ながら、予算の削減も含めてまちづくりを考えていければと思います。以上です。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。では、最後に私の方からコメントの代わりに少しお話しをさせていただきます。今年はこのように小さなグループで意見交換をさせていただきましたが、かなり良かったのではないかと思います。行政の方も入っていただきまして、率直な意見交換がそれぞれのグループでできたのではないかと思います。年に一回と言わず、こういう機会をたくさん作っていくことが必要ではないかと思います。委員会、審議会、説明会というものを今までにたくさんやってきましたが、このように単なる意見交換、情報交換でもお互いに刺激しあって、気づきが生まれていくのではないかと思いますので、是非今後も継続してやりたいと思います。あと、SR作戦とか厳しい状況の中で、切りつめ切りつめやっているわけですが、B班の方でもチラッと出ていたようですが、切りつめるということは、あまり元気が出ないということで、やはり税収を増やすというようなプラス方向の話もしていきたいなぁと思いますが、なかなかこれが難しいわけです。そのためにはやはりメリハリのある施策展開ができないといけないのですが、このメリハリというのがまた難しい。B班の方でたまたま中央北地区という話がでましたが、中央北地区以外の地区の人からは「うちの地区はどうなんだ」という話も出てきますし、また、関心のある分野もそれぞれ違いますから、各自が関心のある分野を重点的にということになってきます。つまり、メリハリがつけられないのは、行政だけでなく、市民の意識もメリハリをつけにくくしているのではないかと思います。こうした状況をお互いにどうすればいいのかを考えていかなければならないと思います。</p> <p>ここからは少し情報提供なのですが、今日私は少し遅れてきましたが、5時頃まで岸和田の都市政策研究所で研究会をやっておりまして、この都市政策研究所も一つの戦略でありまして、どうしても政策論議になりますと、10年後には実現できるのかとか、5年後には実現できるのかという話になってしましますが、その話をちょっと棚上げを</p>

<p>事務局</p>	<p>して、できるかどうかは頑張りしただ、けれども考えてみたいこと、考えておかないといけないことを研究してみようということで、都市政策研究所で研究をずっと続けてきています。今年は「持続可能なまちづくりと協力社会づくり」というテーマでやっております。その一環として先日、大分県の安心院町（あじむまち）というところに視察に行ってきました。今は隣の宇佐市に合併されて無くなっていますが「元気なNPOの作り方」という本でも紹介されています。ほんとうに非常に元気な村でした。何をされているかという、農村民泊ということで農家に泊まれるようになっています。18軒の農家が、私たちが泊まらせていただけるということになっていますが、自然の豊かさと農家のもてなし以外は何もありません。お金は使わずにその場所にあるものを使いながらまちおこしをされているのですが、この成果が何と1年間に1億円のお金を動かすということになりました。18軒の効果で1億円出てきています。町の予算でこの農村民泊にどれだけつけているかという約70万円です。町が70万円つけてくださることで、1億円のお金が動く。そして、間接効果も含めると5億円の効果になっているところなんです。8,000人の町で、18軒の農家が農村民泊をされていますが、割合にすると1%にも満たない人しか動いていないわけです。この0.5%くらいの元気な方々が繋がって、そこに町の元気な方々が重なることによって大変大きな効果を出している典型的な事例です。そして、またこれが、町の人たちの自信、自慢にも繋がっています。例えば、農作物が売れるようになりますし、泊まっていただく方の食材を作らなければなりませんので、今まで休耕していた田畑が耕されるようになりますし、そうしますと、今までゲートボールに勤しんでいた高齢者の方々が、もう一度農業をやってみようということで、農業に戻ってこられています。ある家ではお孫さんが農村民泊を継いでいきたいと言われています。町の人たちがどんどん自信を回復してきています。是非とも川西市もどこを押せば元気になるかということをおみんなで知恵を絞って、集中してこの数年間やるという方法も考えられないかと思います。実はブラジルのクリチバで市長をされていたレルネルさんという方が「都市の鍼治療」という本を書いています。なぜ「都市の鍼治療」かと言うと、ツボに鍼を打れば元気になるように、都市のツボを見つけて鍼を打っていこうということです。ツボをおみんなで見つけて、少ない投資で大きな成果をあげていこうというのが「都市の鍼治療」の意味です。実はここで環境局長をされたナカムラヒトシさんという方は、下村先生の大先輩にあたりますが、単身ブラジルに渡って最終的にはパラナ州の環境局長になって、いろいろなことを進めてこられました。ブラジルはお金がない国ですから、できるだけ効果的にお金を使いながら、やっていこうということになっています。そんなことも参考にしながら、実りのある、元気の出る財政改革、そして、川西のまちづくりを今後とも進めていきたいと思ひますし、私もいろんな所でお手伝いをさせていただきますので、今後ともよろしくお願ひします。以上で本日の審議会は終了いたしますが、まだ言い足りないことや今後の運営の仕方などについて、是非ともアンケートに記入していただきたいと思ひます。</p> <p>(事務局連絡)</p>
------------	--